

# 環境対応生産

環境負荷を極小化したモノづくりを目指し  
地球温暖化防止、環境負荷低減に努めます

## 基本的な考え方

横浜ゴムが使用する資源やエネルギー、排出する環境負荷物質の大半は、生産活動に伴って生じるものです。このため環境対応生産は特に重要であると認識し、これを実現するためタイヤ、MB部門ごとに「生産環境部会」を設置し、執行責任を明確にした体制を確立しています。また、横浜ゴムはグループ会社

として、国内外にタイヤ、MB商品の製造販売会社を設立しています。これらグループ会社では「ISO14001」の認証取得を進めており、グループ一体となった環境経営を推進しています。

背景の写真は2007年7月に「ISO14001」の認証を取得した  
ヨコハマタイヤマニュファクチャリング(タイ)



### ■タイヤ部門

ひとつの活動で三つも四つもの効果をあげたい



常務執行役員 タイヤ生産本部長  
鈴木 伸一

我々メーカーに求められることは、生産段階でムダなエネルギーを使わない、余分なCO<sub>2</sub>を発生させない仕事の仕組みづくりです。その際意識すべきことは、活動の目的をひとつに絞り込まないことです。例えば廃棄物削減についていえば、廃棄物を発生させる裏にはムダな作業という要素が隠されています。これを改善すれば、廃棄物だけでなくムダな作業もなくなり、余分な人の動きもなくなるという一石で二鳥、三鳥の効果が生まれます。こうした活動を通して地球温暖化防止に貢献したいと思います。

### ■MB部門

モノづくりの王道で環境に対応したい



執行役員 MB生産担当兼  
ホース配管事業部長兼  
YHアメリカ取締役会長・CEO兼  
サスラバーカンパニー取締役会長・CEO  
伊澤 俊夫

MB部門はホース配管、工業資材、ハマタイト、航空部品の4つの事業の総合体で、その大半が受注生産であり、製品も生産方式も異なっています。このため、各事業一律の環境対応は困難な状況ですが、私は「環境」だけにスポットライトを当てるのではなく、モノづくりの総合レベルを向上させることで対応したいと思います。安全、品質、コストを追求したモノづくりの総合レベルを上げれば、自ずから環境対応も向上すると考えています。すでに3年前から生産革新活動「MB-P活動」を展開し、活動の成果を上げています。